令和８年度　授業改善推進プラン　　１年　　小平市立小平第十一小学校

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①　明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、 主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　一人一台端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	①　学年の様子から、概ね 90%近くが、平仮名や片仮名を理解し読み書きができている。しかし、「とめ」「はね」「はらい」などの区別は、まだ難しい児童もおり、今後も整った文字を書くための声掛けを行う必要がある。また、拗音、促音、長音や「は」を「へ」といった助詞の使い方についても、定着を図るべく、丁寧な指導を行う必要がある。 ②　学年の国語の授業の様子や図書の様子、読み聞かせの様子から、文章を読むことに対して意欲的に参加している児童は多い。しかし、全体の 30%近くの児童は、豊かに想像する学習にまだ課題があり、今後も、学習の充実を図っていく必要がある。	①　日記や感想などの書く活動を取り入れ、思ったことや伝えたいことを書くことに慣れさせる。また、視写や文章を書く活動を取り入れ、書く習慣を身に付けさせ、 書いた文章を読み返すことを意識させる。２学期からは、日々の学習での定着だけでなく、単元ごとのテストなどを通して、漢字の読み書き等の習熟を図る。 ②　定期的な読み聞かせ等を通して語彙力の向上を図る。また、ICT 機器を用いた一人一人の読書の推進を行う。ICT 機器を用いて教師がモデル文を提示したり、児童の作成物を共有・比較したりすることで、学ぶことを明確化し、児童の学びを深めていく。また、並行読書や読書旬間を活用して、児童が本と触れ合える機会を増やす。
算数	①　デジタルドリルの活用による基礎学力の定着 【基礎的・基本的な学習の定着、 主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　一人一台端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	①　学年の様子から、概ね 90%近くの児童が、数の読み書きや数量の理解が定着している。また、多くの児童が、たし算やひき算の基礎的な計算については、正しくできている。一方で、問題文から必要な情報を読み取り、立式することや、自分の考えを図や式、言葉で表現することには支援を必要とする児童もいる。計算の正確さや速さについても習熟度に差があり、繰り返しの練習や個に応じた支援が必要である。 ②　授業では、自分の考えたことを図で表現したり、友達に伝えたりする活動を苦手に感じている児童もいる。自分の考えや思いの伝え方が分からず苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。	①　２学期以降は、ワークテストと東京ベーシックドリルの活用を始め、児童の実態を細かく把握する。またデジタルドリルを繰り返し取り組むことや個別学習に活用することで、苦手に感じている児童の抵抗感を低くし、「できた」を実感しながら意欲的に取り組むことができるようにする。 ②　式や図、言葉での表し方の模範を児童に示すことで、表現の仕方を学ばせていく。また、意見を交流できるよう ICT 機器を活用した共有を行い、自分の考えを深めたり、考えを式や図、言葉を使って表現したりすることができるようにする。
生活	①　明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、 主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　一人一台端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	①　学年の様子から、概ね 90%近くの児童が身近な人や自然、地域に関心をもち、体験活動に意欲的に取り組むことができている。一方で、活動のめあてを意識して取り組んだり、活動後に学んだことを次に生かしたいことを振り返ったりすることには支援を必要とする児童もいる。また、自分の気付きや考えを相手に伝えることに苦手意識をもっている児童も多く、経験を積ませる必要がある。 ②　学校探検やアサガオの栽培などの具体的な体験や活動に意欲的に取り組み、知ったことや観察したことを生活科カードに書くことができている。一方、観察したことを絵や文で表現することに支援を必要とする児童もいる。	①　活動のねらいを達成できたと実感できるように、観察カードやワークシート、ICT 機器を活用して振り返りを行う。グループや全体での交流を通して視点を広げたり考えを深めたりして、自分自身とのつながりを感じさせ、生き方に活かそうとする態度に価値付けを行っていく。 ②　ICT 機器を活用してワークシートや観察カードなどを撮影・保存し、いつでも見返すことができるようにする。また、季節の生き物の写真を撮り、友達同士で交流する活動を取り入れ、協働的な学びを実現する。
音楽	①　学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、 主体的・対話的で深い学びの授業】	①　ほとんどの児童がすすんで授業に参加している。一方で音楽に合わせて体を動かしたりリズムを打ったりすることに苦手意識をもち、活動に自信をもてない児童がいる。	①　音楽に合わせて手拍子や体全体でリズムを打ち、音楽の楽しさを全身で感じることができるようにする。また短い時間で変化のある活動を取り入れたり、遊びの要素を取り入れたりしながら、繰り返し練習する。

	② 一人一台端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	② 鍵盤ハーモニカでの手の動かし方や、拍の取り方が苦手な児童もおり、ICT 機器を活用し、手本を見ながら学ぶことが必要である。	② デジタル教科書、書画カメラ等の ICT 機器を活用し、スモールステップで学ぶことを繰り返し、技能の習熟を図る。映像を活用し、ゴールの姿をイメージさせてから学習に取り組むようにする。机間指導や、グループごとの発表・個人での発表などを行いながら、習熟の確認を行っていく。
図画 工作	① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、 主体的・対話的で深い学びのある授業】	① 学年の様子から、多くの児童が楽しく活動に取り組めている。しかし、作品の制作中に失敗を恐れたり、自分の考えや頭の中にあるものを自由に表現することに苦手意識をもっていたりする児童もいる。今後も児童の自由な考えを引き出し表現する経験を積ませる必要がある。	① 絵の具やクレパスの他に、素材の形や質感を生かした造形遊びなど、表し方や用具・材料についての経験を充実させ、児童が学ぶ楽しさを実感しながら図画工作のめあてに向かって進められるようにする。また、自力で表現したものは、全て励ましたり価値付けをしたりして、自信につながるよう指導する。
	② 一人一台端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	② クレパスや色鉛筆で色塗りをする際、すぐに飽きてしまったり、きれいに塗ったりすることができない児童もおり、教材の工夫が必要である。児童の関心が高まる教材を探っていく必要がある。	② ICT 機器を活用して学習のめあてに対する成果や課題を捉え、振り返りができるようにする。また、次回の制作に生かせるようにする。ICT 機器を活用することで互いの作品を振り返りを含めて鑑賞できるようにする。
体育	① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、 主体的・対話的で深い学びのある授業】	① 学年の様子から、概ね 90%近くの児童が運動遊びの楽しさに触れ、各種の運動遊びに関心をもち、意欲的に取り組むことができている。一方で、活動のめあてを意識して取り組んだり、活動後に学んだことを次に生かしたいことを振り返ったりすることには支援が必要な児童もいる。また、自分の気付きや考えを相手に伝えることに苦手意識をもっている児童もおり、経験を積ませる必要がある。	① 単元ごとに学習のゴールの姿を示しながら、毎時間の授業前には個人のめあてを確認し、授業後にその振り返りを行う。それらを繰り返し、何を学び自分がどのように成長しているのかを一人一人がより分かるようにする。
	② 一人一台端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	② 自分の身体の動かし方を把握することや想像することが困難である。自分の体の動きを客観的に見る必要がある。	② 特に器械・器具を使っての運動遊びの際には、動画での撮影などを行い、個人の動きを確認できるようにする。また、学習支援クラウドを活用し、遊び方の動画資料等を共有し確認できるようにする。
道徳	① 「考え・議論する道徳」授業の充実 【豊かな心の育成、自己肯定感の醸成】	① 登場人物の心情に、寄り添って考えることのできる児童が多い。一方で自分のこととして捉え、友達と気持ちや考えを伝え合う活動については、これから経験を積み重ねていく必要がある。	① 教材の内容と自分自身の経験や日常の行動とを結びつけて考えられるように発問を工夫する。またペアや全体での交流、役割演技などを通して、多様な考えを認め合い、安心して自分の考えを言うことができる雰囲気や場を作る。
	② 一人一台を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	② 教材の場面や登場人物の人間関係等を一度で把握することが難しい児童もいるため、教材の提示に工夫が必要である。授業の導入時に児童の興味・関心を引き付ける工夫をする必要がある。	② 授業の導入や、範読、場面絵の提示など、ICTを活用しながら、効果的な教材提示を行い、道徳的価値に迫る授業展開を図る。

評価の方法は、学校評価及び実施可能な教科は単元ごとのテスト等の正答率・到達率とする。